

山陽教区教誨師会・山陽教区保護司会共催研修会（公開講座）

山陽教区教誨師会会長 藤本 潤

山陽教区保護司会会長 湯朝 岳明

「臨床宗教師」は被災地や医療機関、福祉施設などの公共空間で心のケアを提供する宗教者です。布教・伝道や営利を目的とするのではなく、宗教者としての経験を生かして、苦悩や悲嘆を抱える方々に寄り添います。（東北大学文学研究科 HP より）また、死別の悲嘆を体験者同士が分かちあうことで癒すグリーフケアの取り組みも大きな注目を集めています。今回、臨床宗教師の資格を持ち、ご自坊にてグリーフケアを実践されている和田隆彦氏を講師にお招きし、僧侶によるグリーフケアについてお話しいただきます。皆様のご参加をお待ちしております。 合掌

記

1. 日時 2023年7月7日（金）15時~17時
2. 会場 同朋会館（姫路）講堂
3. テーマ 「僧侶の聴く姿勢~臨床宗教師の場合~」
4. 講師 和田 隆彦氏（安芸南組超覚寺住職・広島刑務所教誨師）

1967年京都市生まれ。山形大学理学部卒。証券会社勤務を経て、1997年超覚寺入寺。

1998年大谷専修学院本科修了。2012年住職継職。2017年龍谷大学院臨床宗教師課程修了。認定

臨床宗教師。同朋会館教導。広島刑務所教誨師。自坊にて自死遺族等にグリーフケアを実践。

≪講演内容趣旨≫大切な家族や知友を亡くした人に深く関わるべき僧侶。しかし、その御遺族の悲しみや不安にきちんと寄り添えていたでしょうか？お葬式は伝道の場合であると儀式・布教を優先していなかったでしょうか？グリーフケアや傾聴といった言葉が認知されてきた今、仏教の三施（法施・財施・無畏施）のうち「無畏施」に取り組む時代が来たのだと思います。（一部抜粋）